



第 32 回交流会 「初秋 森の風は若返りの妙薬……かな?!」

開催日：2022 年 10 月 23 日（日）

参加者：9 名



久々の交流会。「久々に遠出したわ～」 「元気だった？」と近況を話し合う。これだけでも皆から元気をもらえる！

今回はバスの時刻変更に伴い、先発隊は 10 時 13 分発東岡行きに乗ることとなった。

バスは思っていた程混雑せずに出発。集合時間に遅れた方のため待機、20 分発の城ヶ島行きは乗車率が高く乗り切れない事が分かった。これからは 27 分発東岡行き又は 41 分発油壺温泉行きに乗車する事になるだろう。私のスタッフとしての仕事は取りあえずここで終了、名簿と旗をしまう。

グループの皆と合流すべくバスに乗り、引橋で降りる。急いで歩き始めたが目の前に写真を撮っている

グループがいて合流することが出来た。「今日は思っていたよりもゆっくり歩いて行けそう」携帯とスタッフが作ってくれた資料を片手に森へと入って行く。姿は見えないが鳥の声が迎えてくれた、虫や蝶々、植物の写真を撮って名前を調べてもらい、資料を読んでもらう。「へ～そうなの」と感心しきり、そういえば昔から色々な植物が漢方として利用されていましたね。

エノキテラスで昼食を食べ、海岸へ行きたい人は干潟へ足を運ぶ。ここで集合写真をパチリ！忘れずに撮ってもらいました。

帰りはキツイ階段を登って北尾根から三崎口駅へと歩いて行く、笹で出来たトンネル、「新トトロのトンネル」と言ってる所をくぐり抜けて見晴らしの良い尾根筋から相模湾を眺めながら三崎口駅へ向かいました。

夏のように暑い日でしたが、森の中に入って仲間と同じ時間を過ごせたことで、心と身体がリフレッシュされました。「これが若返りの妙薬なのかな」なんて思いました。

忘れ物をしたような気がして、もう一度エノキテラスへ行っていました。そこはアシが風に吹かれて、空は赤く染まりかけていました。「この場所がいつまでもここにありますように、今日はありがとう」圧倒される景色の中でお礼の言葉をつぶやく。

記 三本保子 写真 T.Ishizuka

資料を作成するにあたって

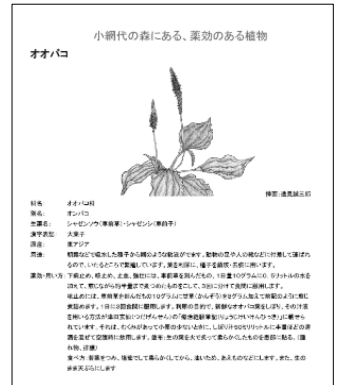
今回の交流会は秋の小網代にはどんな薬効のある植物があるのか、散策しながら見つけられたら楽しいな、ということだった。

そこで、薬効のある野草にはどんなものがあるのか、Webで検索すると多くのサイトがヒットした。その中で、写真ではなく手描画像で薬効のある野草を紹介している「内藤記念くすり博物館」と薬効と使い方をわかりやすく詳細に掲載している「イー薬草・ドットコム」に出会い、この2サイトを参考にして資料を作成したいと考えた。

と、その時後ろから、「なにをしている！他サイトの記述をパクってなにかを作ろうなんて決してしてはいけないぞ！」と厳しい声が飛んだ。さらに最近の秋篠宮家ご長男の論文のこと、昔ある博物誌の画像を描いた画家がどんなに貧しい暮らしをしていたか、昨今の学生の論文がコピーばかりだとの話にまで及んで、著作権について厳しく指摘された。

もちろん、ある程度形になったら参考サイトに許可をお願いするつもりだったが作成の前にあわてて許可願いを提出した。描画1点2000円からとサイトにあったが、くすり博物館のご担当様は私たちの会の意図を確認して、快く無料使用できる許可を発行してくださった。イー薬草・ドットコムからは、皆様が使ってくださると私たちの励みになります。と、うれしいご返事をいただき、ほんとうにありがたかった。Webの作用と学術研究者とのこれからの関係の変化、最初に作成した人、記述したひと、研究した人への尊敬を忘れてはならないと、強く心に刻みこんだ今回の資料作成だった。

資料には浪本さんが作成してくださった毒のある植物やかぶれるものなどの危険植物の一覧表も追加され、さらに役に立つものになってうれしい。



今回の資料に掲載した 小網代の森で見ることのできる薬効のある植物			
オオバコ	クサギ	ドクダミ	セキショウ
ミョウガ	イヌホウズキ	タラノキ	ゲンノショウコ
フキ (フキノトウ)	ミツバアケビ	ミゾソバ	ナンバンギセル
ジュズダマ	オナモミ	サルトリイバラ	ヨメナ

鈴木カヲル

1年くらいはご無沙汰していたでしょうか。本当に久しぶりに森を歩きました。

すっかり弱った足腰は、日ごろの不摂生のせい。決して年のせいではないぞと心に言い聞かせ、歩きはじめます。

明るく、爽やかな風、森にいる植物たちの薬効が飛び交っているようです。そうか、森を歩くと元気になった気がするの、気のせいじゃないんだ！ 森中の風が元気の素であふれてるんだと、ひとり納得。

たくさん種類のチョウが元気いっぱい飛び回っています。アゲハチョウがひらひら、なんだか力強く見えます。シジミチョウもいろんな種類のがいっぱい、ウラナシジミは見たかな。アサギマダラには会えませんでした。スタッフの手に止まって動かないのは、多分ウラギンシジミ。ウソついたかも。ごめんなさい、実は私、チョウは全く分からないのです。

森のお仲間に支えられて、久しぶりの森と森の薬効を胸いっぱい吸い込んで「よかったなあ～、しあわせだなあ～」ってこれ、森のご利益です。今夜はぐっすり眠れるでしょう。

橋みちよ

ご参加の皆さまからコメントをいただきました

今日は、久しぶりに来れたのと、思ったよりも暑くてびっくりしました。今日は、資料にあった「タコノアシ」の枯れたタコの色を初めて見たので、それが感激しました。

T.K

私は植物の独特の名前、ゲンノショウコ、クサギ、イラクサとか、そういうのが面白かったです。 F.K

お天気が良くて、久々の小網代で、とても楽しかったです。印象に残っているのは、ジャゴケ！拡大すると、びっくりして写真に撮りました。 T.I

秋だというのに、この夏のような気温で、ちょっとびっくりしたんですけど、今日、皆さん来てくれたので嬉しいです。今、非常に感動しています。「シジミチョウ」が手に乗って動きません！それに感動しています。 Y.M

今日は、皆さんとお会いできて嬉しかったです。久しぶりの小網代で、植物のある場所がちょっとずつ変わっていたので、やっぱり変化があるんだなと思いました。こんなにたくさんの「ミゾソバ」とか「ジュズダマ」とか、上流の方から生えていたので、水流が少なくなったのかちょっと心配もしました。でもまた、来るたびに違うことがあって面白いのが小網代なので、これからも来たいと思います。よろしくお願いします。 K.S

久しぶりに来た日がこんなに天気が良くて、チョウチョとかいっぱい飛んでいて、花も夏の花と秋の花が一緒に咲いているみたいな、次の季節が心配だと思うんですけども、来てよかったです。 M.H

私が一番嬉しかったのは、Hさんに森でお会いできたことです。通信の編集者なんですけれど、こあじろが大好きなのに、なかなか出てこられなくて。今日は会えて嬉しかったです。植物でいうと、引橋入口から入って最初に出会ったアカネ。名にし負うじゃないけど（実は私の名はあかね）、アカネ草が今日まで見た中で、一番大きな群落になって生えていたのが嬉しかったです。いつかはアカネ草の根を掘って、染料としてどんな色になるか見てみたいと思っています。 A.M

今日はありがとうございました。普段、自然の中を歩くのをしないので、とてもよかったです。印象的だったのは、「ジュズダマ」は初めて見たので、それがよかったのと、あと、カニもたくさん見れたし、あと、一番最初に触ってレモンの香りがしたレモンエゴマ、そういう物を普段触って嗅ぐことがないので、そういうことが良かったです。ありがとうございました。 K.K

干潟に行ったら、「ツボミガイ」があったんです。小倉さんと江良さんの本「干潟に生きる小さな貝たち」がありますよね。あの中のお話にある「ウミニナ」にちょこんと付いた貝です。「ツボミガイ」が見つけたので、今日はそれだけでも満足です。 H.N

こあじろの森くらぶ オリジナルカレンダー2023



会員の皆さまにもご協力をお願いしました「こあじろの森くらぶオリジナルカレンダー2023」の画像が決定しました（10月16日）。2021年～2022年に撮影した、季節感あふれる小網代の森の写真を楽しめる卓上サイズのカレンダーです。

（掲載画像提供 高橋伸和さん、浪本晴美さん、松原あかねさん、三本信一さん、宮本美織さん、木皿直樹さん）

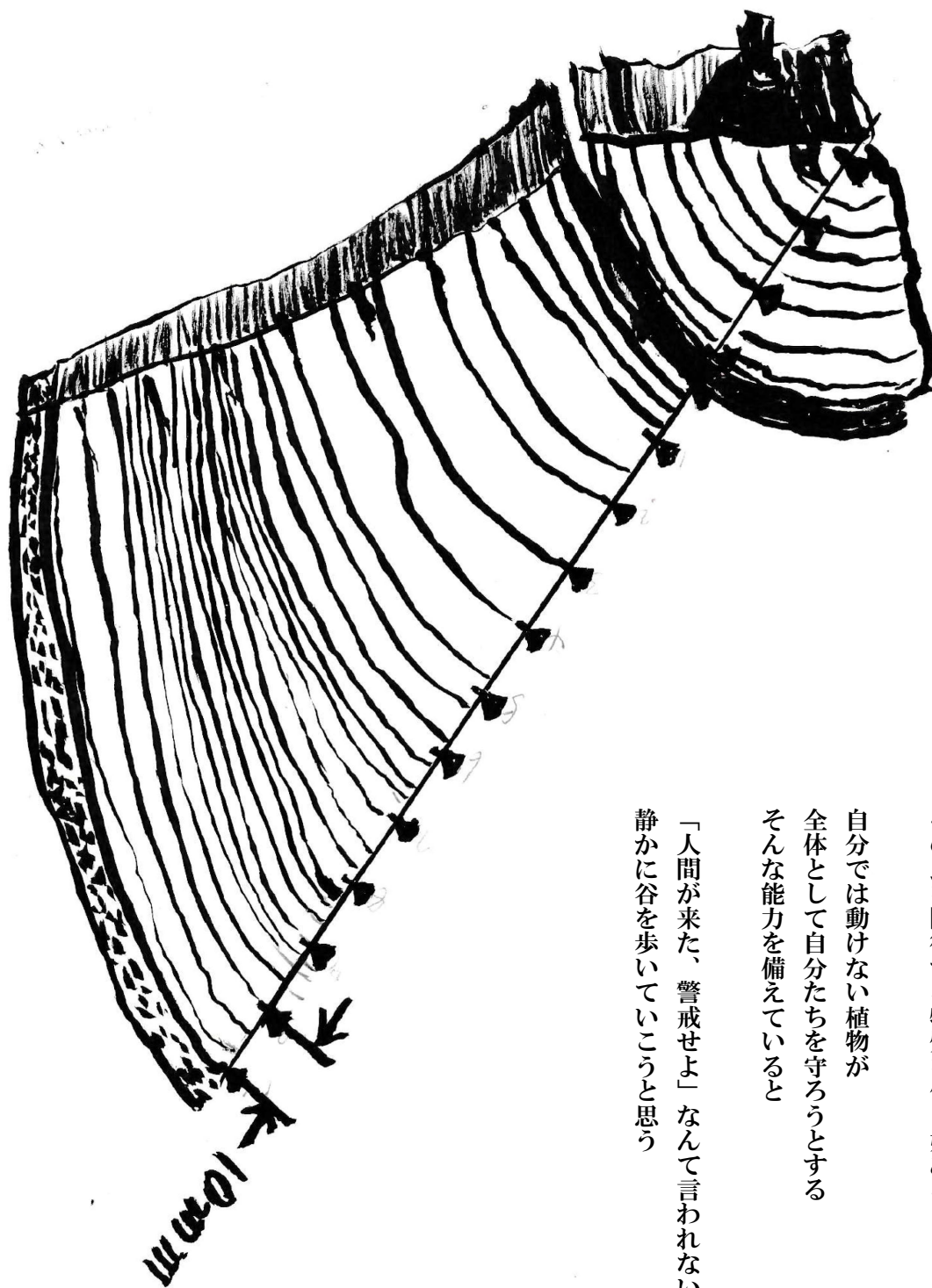
ハガキサイズ×6枚組

価格：500円（送料込）

お申込み・お問合せ：info@mori-club.com（高橋）

046-889-0067（仲澤）

小網代を詩う



虫にかじられた葉は

周りの木々に「虫が来た」を意味する成分を送り出す
それをキャッチした隣の木は

その虫を防御する物質を作り始める

自分では動けない植物が

全体として自分たちを守ろうとする

そんな能力を備えていると

「人間が来た、警戒せよ」なんて言われないよう
静かに谷を歩いていこうと思う

歴史に

中井 由実

昔の詩集を開くと
 金色に色づいた高い梢が
 色々なお茶の色になった落ち葉が
 知らないうちに袖口に付いているヌスビトハギが
 そここのページに出てくる

三十年前

二十年前

十年前

なんて長い時間が経っているのだろう
 無くなってしまうかも
 変わってしまうかも、と
 心配していたけれど
 ほら、小網代は
 今年も秋を迎えて穏やかに笑っている

私たちの小網代歩き必携品リストに
 長靴が書かれなくなったことが違うくらい

たくさんの宝物を抱えている小網代を
 書いてきて良かった
 記録してきて良かった
 ささやかなスケッチのようなものだけれど
 歴史は、小さな点をつないで表されるものだから
 その点の一つになれば
 私が小網代に出会った意味があるというものだろう

会 話

中井 由実

風と光の流れを追いつつ
 森を歩きながら
 木同士が会話していると感じてきた
 何となく

本当だった

植物は

様々な化学物質を放出しながら
 周囲とコミュニケーションしていることが分かったそうだ

虫にかじられた葉は

周りの木々に「虫が来た」を意味する成分を送り出す
 それをキャッチした隣の木は
 その虫を防御する物質を作り始める

自分では動けない植物が
 全体として自分たちを守ろうとする
 そんな能力を備えていると

「人間が来た、警戒せよ」なんて言われないよう
 静かに谷を歩いていこうと思う

スタッフ研修 第3回海岸歩き「劔崎灯台～江奈湾」

2022年10月30日（日） 参加者5名

これ以上無いような好天に恵まれて、劔崎バス停から前回のゴール、灯台下をめざして歩き出す。途中、前回時間の関係でパスした間口A洞窟遺跡に立ち寄るため、脇道にそれた。

ここには1996年急傾斜地崩壊対策工事で埋められているが、三浦半島で初の縄文時代の海蝕洞窟遺跡である間口B（東）洞窟遺跡があったとされる。さてこの辺りかと想像しながら、すぐ近くの間口A洞窟遺跡へ。人家の脇の古そうな石段を上ると、平らな草地に出て、小さな赤い社があり、その背後に三角形に開いた薄暗い洞窟があった。（写真-1）ここからは日本で初めて、古代の占いに使われた、焼いた亀の胸の骨、亀トが出土している。その後、住居や墓地、やぐらとして使われ、最近では防空壕としても利用されたそうだ。暗くて狭そうで、ちょっと入る気にはならない。それもそのはず、「かつて神明社を造るときに土盛りをして平地を作った」（南下浦の歴史探訪記より）ので、調査を終えて埋め戻した今の床面は、ト占を行っていた弥生時代よりかなり高くなっているという。

畑の間を歩いて灯台近くに出る道を行くと、農家の方が作業中。

「何を収穫しているんですか？高菜ですか。少し分けていただけます？」

というやり取りの後、大量に安く分けてもらった高菜を、さらに仲間で分け分け！

灯台下の夫婦岩から、本日の海岸歩きが始まる。背後の海蝕崖を振り返ると、「あそこの縞々は縦になってる！なのにその先では斜めって、平らに近くなってるよ！」と、足もとに気を付けながらも地層の変化に驚く。

もともと深い海底で堆積したシルトと呼ばれる砂と泥の間の大きさの砂泥と、スコリアと呼ばれる黒い火山礫が、白黒にミルフィーユ状に重なって生まれた三崎層が、海底でものすごい力で陸側へ押されたためにできた断層や、^{しゅうきよく}褶曲のオンパレードなのだ。ああ、この絵物語のような地層の、成り立ちの一つひとつを想像して、物語のように語ることができたらどんなに面白いだろう！しかし、残念ながら、何千万年まえの深い海の底とか、遠い距離とか、圧力とか、そういう物凄い数字が、私には本を読んでも実感として理解できず、頭に入ってはこない。誰か、どこかに、そんな語り部はいてくれないだろうか。



エナブレッジの建物

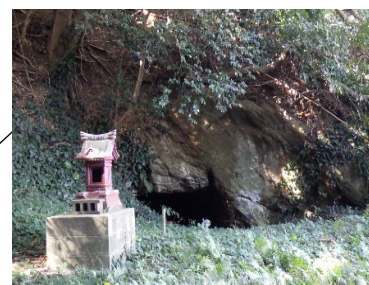


写真-1
間口A洞窟遺跡

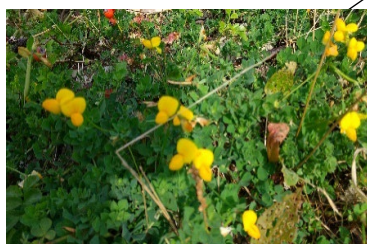


写真-4
ミヤコグ



写真-3
高磯



写真-2
海蝕洞窟が3つも並ぶ

図は google map の地図に木皿直規さん作成のアプリで記録したルートを重ねて作成し

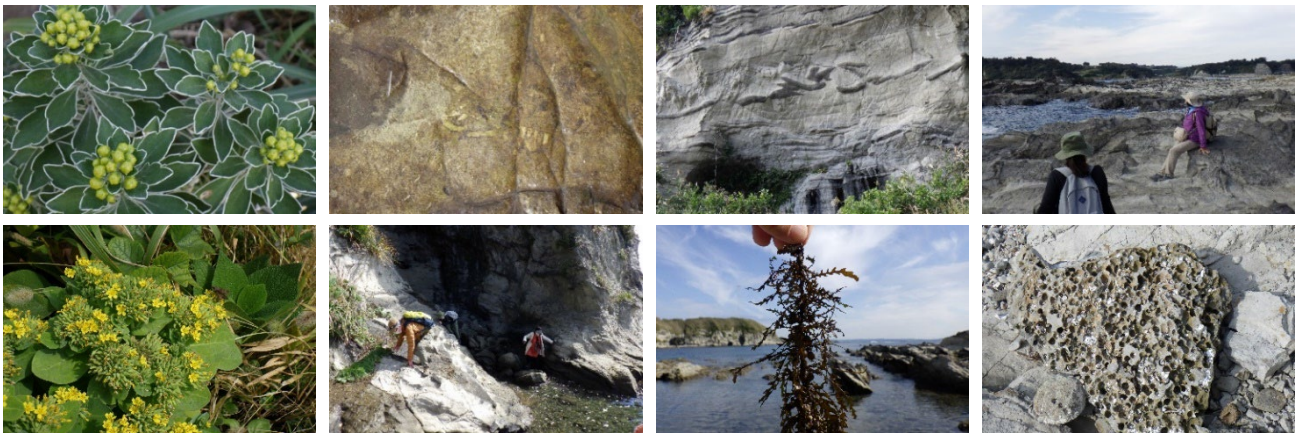
第1回の雨崎からここまで、三浦半島南部の岩礁海岸を南下してきたわけだが、ここから先は、大まかに言うと進路を西に進むことになる。その回り込んだ角の部分、無線方位信号所の南岸はすごかった。方向が変わって波の浸食が激しいためか、海蝕洞窟が3つも並んでいる。(写真-2) 私たちが歩く海蝕台も遠くから見れば平だけど、地盤の地層がゆるく傾斜しているので、白くて柔らかいシルトはけずられ、黒いスコリアがそびえる様に残る、10cm~1mの落差の続く難路となる。お尻をついたり、2本足から3点支持、4点支持と歩様を変えながら、ゆっくり進む。

一つ目の洞窟前に来た。何と、潮が高くて少し奥まで行かないと渡れない。次の洞窟前には橋がかかっていた。最後の洞窟、オーバーハングになっていて危険！仕方がない、先頭は靴を脱ぎ、念のため靴下のままふくらはぎくらいの水に入って1mくらい渡る。牡蠣殻などの危険はなかったのも、みんな素足になって続く。それぞれ緊張して渡ったが、若いMさんがサッと手を貸してくれ、お陰でみんな無事に渡り終えてほっとした。小休止。するとみんな顔を見合わせ、急に若返ったような笑顔になった。最高の瞬間だった。

下見を含め、前に3回ここを通っているが、水に浸かるなんて初めてのことで油断があったのか、潮の読みが甘かったと反省。これからは、人の都合ではなく、潮の都合に合わせて計画をたてよう。たとえば歩みはノロくても、安全第一！

ここから人っ子一人いない鄙びた浜を2つ通り、江奈湾の南端、高磯へ。(写真-3) この辺りには、磯釣りの人が多かった。またもや高低差有りのルートが続くが、ここからの眺めはすばらしい。西には城ヶ島の灯台や城ヶ島大橋が、毘沙門の島や山の間から見え、遠くには伊豆半島の一部や、大島もぼつちり。少し歩くと平らな道になって、足もとには小網代では出逢わない海岸性の植物がいろいろと咲いていて、のどかな花畑の体をなしていた。シジミチョウやキチョウなどがのんきに踊っている。(写真-4) ここまでの荒々しくダイナミックな景色とは打って変わり、私たちの気持ちを優しく解してくれるようだ。

さあ、今日の目的地、エナビレッジの建物が見えてきた。(写真-5) 今日はお弁当ではなく、レストランの海鮮ランチなのだ！！



記：松原あかね 写真：浪本晴美、三本保子

今回の海岸歩きは私の中になにか変化を起こしたのではないかと考えられるほど、印象深く、楽しく、ぬけるような空と風と波と断崖とが、翌日1日私の中で大きく存在していました。

計画を立てて引率してくださったA.Mさんをはじめ、当然のように資料・写真を提供してくださるNさん、よたよたの足をさっと支えてくださるY.Mさん、男性一人でかしましいおぼはんに交じってくださったTさん。

こんな皆様がいて、こんな経験ができる幸せをほんとうにうれしく思います。

早くM先生も一緒にゆけるように！

小網代の森の力はこのようにも生きているのですね。

ありがとうございました。

K.S

海岸歩きはこれからも続けますので、ご興味のある方、一緒に歩いてみたい方はぜひお仲間に。会までご連絡ください。

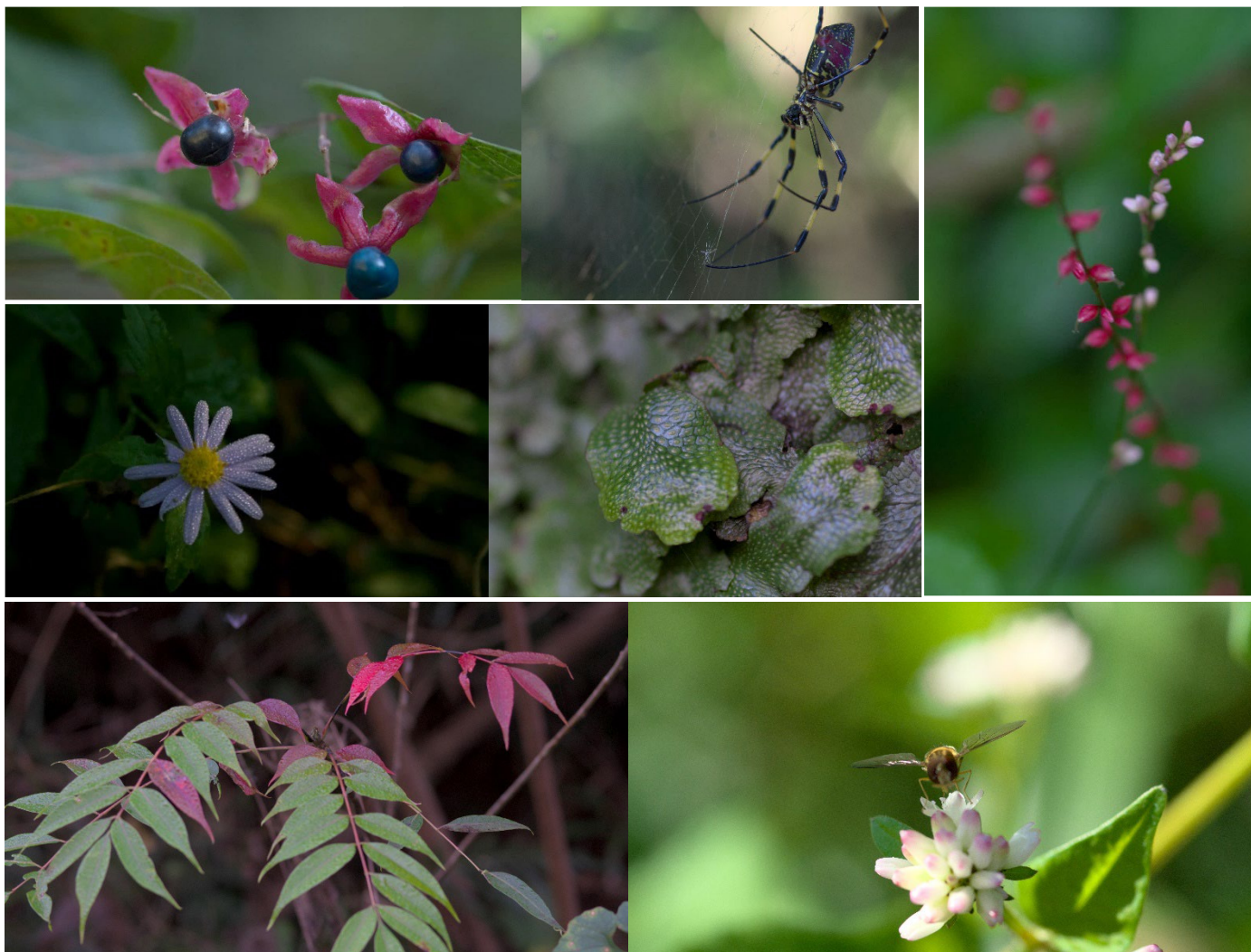
今日の小網代

写真：T.Ishizuka

2022 年 10 月 23 日（日）



2022 年 10 月 29 日（土）
早朝の森は貸し切り状態



■ スタッフ研修 変形菌探し@光の丘水辺公園

光の丘水辺公園友の会会長の別府さんのご協力をいただいて、変形菌探しの研修を行いました。

7月8日：参加者3名。見つかった変形菌は正式に同定していませんが、スミホコリ、アカハシラホコリ、シロウツボホコリ、コカタホコリ、ナミウチツノホコリ、チャコムラサキホコリ、ネズミスホコリ、ムラサキホコリのなかまなど。思いがけずたくさんの種類に出会え、大興奮の一日でした。採集した変形菌は別府さんが標本にしてくださいました。

10月15日：参加者3名。今回は別府さんが参加できず、非常に心もとなかったのですが、茨城県自然博物館の変形菌イベントに参加したメンバーでやり方だけでも復習しようではないかと、7月に見つけたポイントを中心に探して回りました。季節的なものか直前に続いた雨のせいかな、見つかったのはカビの生えたものや「なんちゃって菌」ばかり。さらに藪蚊の猛攻撃！もうダメだ、諦めようと思った時にMさんが白いツブツブを発見。菌類？虫の卵？とその場で変形菌と言い切る自信はありません。それでも、これはなんだか怪しいなと持ち帰って様子をみていると、なんと翌日には白から黄色になってきました（ドキドキ！）。どうやら未熟な変形菌、ケホコリのなかまだったようです。乾燥して干からびてきたので、あわてて水分を与えたのがいけなかったらしく、翌々日には茶色の梅干し状態になってしまい、残念ながらもうちよつとのところで変身失敗でした。難しいですね。

準備するものや採集方法など少しずつわかってきましたので、また来シーズン挑戦したいと思います。

浪本晴美



採集当日の艶やかな白いツブツブ



翌日には黄色くなる



標本箱（5cm×10cm）に収めた状態

*ちなみに宮本卓也先生に写真を見ていただいたところ、ケホコリのなかまは顕微鏡で細毛体や胞子の特徴をみないと 仲間わけができないそうです。

変形菌探しグッズ 結構持ち物が多くて大変です～

服装は長袖、長ズボン、帽子、長靴（藪蚊、ハチ、ドクガ、クモの巣、マムシ、植物の棘などにご注意）。

持ち物としてルーペ、図鑑、カメラ（採集する前に周囲の状況や自然での状態を撮影、マクロレンズや顕微鏡撮影ができるカメラがよい）、ライト（腐木の下など暗い場所での探索に必携）。

標本採集するなら、へら（スクレイパー）、ナイフ、剪定鋏、鋸など。採集した標本を一時的に入れるトレー（今回はヨーグルトの蓋を再利用）、トレーを並べる箱、標本箱（今回は別府さん提供の型紙をケント紙に印刷して手作りで作成）、ボンド（標本を箱に固定する）、ピンセット、標本箱を納める箱。箱を水平にした状態で持ち帰ることのできるバッグか風呂敷等もあるとよい。変形体や未熟な子実体を持ち帰るなら、タッパーウェア（水で湿らせたキッチンペーパーを敷く）。

記録にはペン、ポストイット（標本に仮の番号を振る）、地図（採集ポイントを書き込んでいく）。

標本を保管するためには密閉できる缶箱、乾燥剤（シリカゲル）、防虫剤（樟脳）。

2021. 11. 6 祖父川精治



世界最高峰のエベレスト8848メートルを初めて遠望したのは、今から30年前に搭乗した山岳国ネパールのロイヤル・ネパール・エアラインズのヒマラヤ・マウンテンフライトである。ネパール国旗は、赤色の三角形を2つ重ねた月と太陽を現しているという。フライトはまだ暗い早朝、カトマンズのトリップバン空港を離陸、無風快晴が最大の飛行条件である。中古の機体であるボーイング社のB727、席は窓側のAとBを使用する。

2度目は、地に足の着いた状態でエベレストを何としても眺望したいという想いから、12日間行程のエベレスト展望トレッキングへ参加したものである。現在では、ヘリコプターの性能が上がりヘリポートのある標高3900メートルのシャンボジェや、ベースキャンプのある5300メートルまで利用が可能であるという。しかし首都のカトマンズ1350メートルから一気に飛ぶのは、余りにも標高差が大きく高山病で体の負担が大きいといわれる。

山岳地なので平坦ではなく、傾斜のある珍しいルクラの飛行場2800メートルまで小型飛行機で飛び、パーティを組んで次第に高度を稼ぐのが一般的である。昔、イギリス隊が始めてエベレストへ向かった時は、数百人のポーターを引き連れて首都カトマンズから歩行開始したという。

私達日本人トレッキング10名。対して、メンバーは現地ガイドの総責任者のサダー、スタッフのシェルパ10人、コック1人、ポーター30人。キャンプ地ではトイレtentを張る。私たちは、カメラを手に軽装で景色を楽しみながらのんびりと歩行する。ポーターの中には、若い女性の姿もあった。3時のティータイムには、テーブルや椅子を用意してくれる。最近の情報によると、各地に簡易宿泊施設や食堂が整い随分と楽になったようである。

ナムチェバザールという、大きなすり鉢状に立ち並ぶヒマラヤ最奥の集落に着く。地域を代表する広い市場交易場である。最近の情報によると集落の自家発電設備が完成したと聞いている。私たちが行った時は、まだ暗い灯油を使ったランプの宿であった。

息を整えながら急斜面を登って行くと次第に展望が開け、左正面高くに三角形形状のエベレスト8848メートルが望め、ヌプツェ7879メートル、ローツェ8516メートルを従えている。エベレスト斜面には有名なイエローバンドが確認できる。更に歩行を進めていくと、惜しくも氷雪の峰々は前衛手前の山々に隠されてしまう。

土地の人から、アンモナイトという古代の貝の化石を買わないかと勧められる。エベレストが海底から隆起したという何よりの証拠品である。本来は厳重に管理保護された売買禁止品である。

地球上、南極、北極に次いで第三の極地といわれる、世界の最高峰エベレスト。1953年(昭和28年)5月29日、イギリス登山隊によって初登頂された。この報告が伝えられたのは、本国のエリザベス女王戴冠式の前夜であったという。登頂者は2名、ヒラリーとネパール人のテンジン。その名は世界中に知れ渡っていった。ヒラリーは大柄な人で後に来日して、エベレスト登頂の報告をしている。

第2登は1956年スイス隊。第3登は1960年中国隊。

イギリス隊は、過去1921年以来に10回近く何度も何度も挑戦し続けてきたものである。世界中の人々は、そう簡単に登頂を許すことはないと思っていた。1852年、エベレスト名は、当時統治していたイギリスの測量長官の名である。ネパールでは昔から、宇宙の母なる山という意味のサガルマータと呼ばれていた。現在エベレスト周辺は、サガルマータ国立公園として保護されてきている。また北側の中国では、チョモランマといわれている。

1966年(昭和41年) 5月、日本隊がエベレストへ挑戦し登頂に成功している。

日本隊が8000メートル級のヒマラヤ峰を世界初で登頂成功したのは、マナスル8163メートル、世界高峰順位は8位。それも第3回目の挑戦であった。1956年(昭和31年)5月9日。毎日新聞社が全面的に協力している。

1975年「昭和50年」 エベレストの女性初登頂者は、全世界中で日本人の田部井淳子さん、当時36歳2児の母親、身長150センチ。私は、ネパールのホテルのロビーで田部井さんとお会いしたことがある。

情報によると 2011 年(平成22年) 5月の、エベレストは晴天に恵まれて登頂ラッシュであった。ネパール側のベースキャンプには世界各国から凡そ1000人が集結したという。頂上を目指し、そして登頂者は300名が成功したと伝えられた。厳しくて登頂は3分の1の確率である。報道によると、氷雪の危険個所には固定ロープ約8000メートルが張られ、それも登降で混雑するのでダブルで用意されていたという。

最近のエベレスト登山は、各国で企画する公募隊「登頂請負」が多いという。総費用は内々に、1人当たり500万円が相場と伝えられている。内、協力費として1割程度は地元ネパールへ納めると聞いている。

小網代の森 NEWS

スタッフの活動

- 2022.09.25 (日) スタッフ会議 10:00～(横須賀市立 市民活動サポートセンター)
- 2022.09.25 (日) 通信第 33 号印刷発行(横須賀市立市民活動サポートセンター)
- 2022.10.15 (土) スタッフ研修 変形菌探し 光の丘水辺公園
- 2022.10.16 (日) カレンダー画像選考会 13:00～15:00(リモート)
選考会終了後スタッフ会議(リモート)
- 2022.10.23 (日) 第 32 回交流会「初秋 森の風は若返りの妙薬……かな?!」
- 2022.10.23 (日) スタッフ会議(リモート)
- 2022.10.30 (日) スタッフ研修 三浦の海岸歩き
- 2022.11.02 (水) 第 33 回交流会・縁の会のお知らせ ハガキ作成・投函
- 2022.11.12 (土) 第 33 回交流会下見
- 2022.11.12 (土) スタッフ会議(リモート)

ご寄付ありがとうございます

石川登美子様 岡田尚子様 押田美英子様 須田昭子様
高橋伸和様 久水健史様 松林伸子様 三本保子様

以上の皆さまからご寄付をいただきました 大切にに使わせていただきます。

第 34 回交流会予告「鳥いっぱい谷と海 2023!!」

ここ数年コロナウイルスに祟られ放しだった「鳥見の交流会」。今年こそはと腕は鳴り、肩にも力が入ります。企画の詳細は現在調整中ですが、開催のお知らせを年明けにも、ハガキでお送りする予定です。今しばらくお待ちいただきますが、どうぞ、乞うご期待。

●●● 第33回交流会「相模湾から、東京湾へ 三浦半島横断」●●●

久しぶりにロングコースを計画しました。小網代漁港から相模湾を眺めた後、森の中を通り引橋へ。ベイシアで昼食後、畑を眺めながら東京湾へ下ります。（この記事は11月上旬にハガキでお知らせした内容と同じです）



開催日：2022年12月3日（土）*荒天中止

お待ち合わせ：10:20 京浜急行三崎口駅前

持ち物：飲み物 必要であれば雨具、観察道具等

対象：「こあじろの森くらぶ」会員とご家族、ご友人

行程：10:41 油壺温泉行バス乗車 バス停小網代下車 ¥250

小網代の森を歩き、引橋のベイシアで昼食

（昼食はベイシアで購入できます。お弁当持参もOK）

解散：15:00 頃東京湾側のバス停（役場下）で解散

（三浦海岸駅行きのバス 15:07 15:38 16:04 ¥180 が利用可能です）

時間があれば海岸で貝拾いまたは付近で地衣類探しなど、自由にお楽しみください

縁の会参加の方は徒歩またはバスで移動（バス停・菊名下車）

* 保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。

* 引き続きコロナウイルスへの対策はしっかりとお願いします。

●●● 縁の会のお知らせ ●●●

第33回交流会の後ご希望の方は、恒例の縁の会へ。縁の会のみご参加の方は17:00 現地集合。（三浦海岸駅から剣崎行または三崎港行のバスがあります。（バス停・琴音下車）。徒歩でも15分ほどです）

日時 12月3日（土）17:00~19:00

会場 三浦海岸 伊豆島（三浦海岸駅から徒歩15分 日本料理）

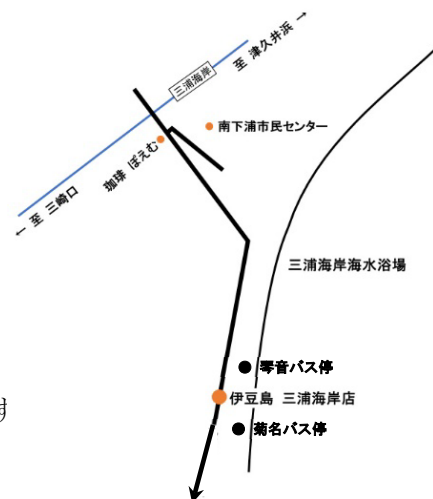
TEL:046-889-4100

会費 5,000円 飲み物は別途各自負担

参加ご希望の方は11月末までにスタッフ、下記の連絡先にお申込み願います
縁の会のみのご参加も歓迎です。

ご連絡先：メール：info@mori-club.com（高橋）

電話：046-889-0067（仲澤）



●各イベントはコロナウイルスの感染状況により、中止になる場合があります。

小網代の森へのお出かけは、神奈川県ホームページを確認してから、が安心です。
神奈川県ホームページ URL <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/d2t/kankyo/p820028.html>

こあじろの森くらぶ通信 No.34

2022年11月27日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地：〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田1528-75

連絡先：info@mori-club.com（高橋）

046-889-0067（仲澤）

URL：<http://www.mori-club.com>

年会費：1000円（7月～6月 入会金不要）

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203